

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.3

共汗部会 第1回すこやか部会

(保健、教育、福祉分野)

主な議事：共汗部会の役割や次期京都市基本計画の構成等について意見交換

開催日：平成21年10月29日(木)

会場：こどもみらい館



レポーター 松村 幸裕子さん

1983年京都生まれ。高校2年生の時に、(財)京都市ユースサービス協会と出会い、京都市基本計画(2001)にパブリックコメントを出す。その後、市政への若者参画を促す「WACCORD」にて活動する。現在、大阪教育大学大学院生

会議のポイント

POINT 1.

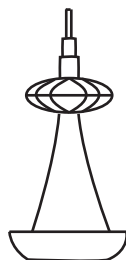
財政難のもと、どのように計画作りに取り組むのか



市の財政を踏まえて、お金があまりかからない、でも新しく画期的なアイデアをお願いしたい、という部会長の意見に対し、市民と行政が共汗しながら、計画の策定だけでなく、実践に取り組むべきであるとの意見が出され、財政難や計画作りが私達市民の実生活に関わるものであることを強く認識しました。

POINT 2.

現在の課題と10年後の理想と課題を見据えた計画作り



パリやニューヨークと比較し、素晴らしい長寿環境都市であるといえるような構想など、10年後、どのような京都であつたらいいのかをイメージしながら計画を策定すべきであるとか、この10年間で現在ある課題をどうクリアしていくのか、またどのような新たな課題が出てくるのかを考えるきっかけとなる発言が多くあつたことが印象的でした。

この会議を傍聴して、 松村さんが思ったこと

今後3つのテーマ毎に話し合っていくことを踏まえて、第1回目は、テーマ毎に各人がそれぞれの立場で現在考えている、感じていることを出し合われているのが全体として印象に残りました。正直、ここまで意見が活発に出るとは思っていませんでした。また、部会長さんが場に笑いを提供し、和やかな空気を作り出されていたように感じます。ですが、時折「(市に)こうしてほしい」といった発言が見られ、これから計画を作っていく人たちであるのだから、自分事として考えてほしいなあ、と思いました。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた松村さんの提案

●保健分野(子育て中の親支援について)

おとなりさんの視える化！

→子育て中、わからないことがあれば助けてくれる「おとなりさんマップ」を掲示。また、町内伝言板を設置し、「助けていい人」「助けて欲しい人」を書き込める仕組みをつくる。

●教育分野(京都らしさを出すには)

京都ブランドの学問を！

→小学校から高校まで一貫した「京都学」の科目化

●福祉分野(障害(がい)者就労について)

「ありがとう」を言われ、言う場が地域にある！

U35については、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行：京都市 編集：未来の担い手・若者会議U35

